

『第2回農地・水・環境保全向上対策に関する検討委員会』議事録

日 時 : 平成21年11月25日(水) 13時00分～15時30分
場 所 : 北秋田市綴子「綴子基幹集落センター」
出席委員 : 長濱健一郎、児玉徹、阿部幸悦、田村陽子、柏田一雄、田仲和子

【意見交換会の概要】

(1)秋田県あいさつ

[菅原農山村振興課長]

- ・本日は、活動を実践されている方々との意見交換を通じ、本対策の効果等を適切に評価する検討委員会の今後の主要な業務の参考にしたいと考えている。
- ・県及び地域協議会では、種苗交換会の協賛行事として11月2日に「農村環境保全・活性化フォーラム」を開催し、地域資源の維持保全活動とグリーン・ツーリズム、直売所、観光等とつなげて、アグリ・コミュニティ・ビジネスの推進による地域ブランドの確立と、本対策の活動の社会的評価を高めていきたいと考えている。
- ・たくさんの意見を出していただき、検討委員会と活動組織、双方にとって実りある会にしたいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひしたい。

(2)活動状況説明

「三澤敏行隊長代理」

パワーポイント、地域住民交流会ビデオで説明。

(3)意見交換

構成員となっている各種団体代表の本対策に関する意見等

大畑自治会 小笠原会長

- ・「綴子大太鼓の里保全隊」は、10の自治会が参加し、自治会の実情にあった活動を実施している。
- ・大畑自治会では、農業従事者の高齢化が進んでいるとともに、施設の維持管理についても、細々と実施してきた。
- ・本対策で共同活動に取組み、年々、若者・非農家の参加者が増加し、住民の連携や世代間交流が深まってきたことは、地域にとっては非常に嬉しいこと。
- ・農地へのゴミのポイ捨てが少なくなったのも、子供たちを含めて地域全体が農村の環境保全に関心を高めた証拠。
- ・今後も共同活動には自治会として積極的に参加していきたい。

上町自治会 高橋会長(小学校との連携について)

- ・綴子小学校の総合学習の大きな「めあて」は、地域の人、地域の自然にかかわること。
- ・対策前は学校畑での野菜栽培が主体であったが、対策により米づくりを経験させることができた。
- ・田植え、生育観察、刈り取り、地域交流会と、たくさんの地域の方々と接することができた。
- ・遊休農地を利用した菜の花栽培についても、秋の種まきから冬を越え、春に花を咲かすことに子供たちは、みんな感動した様子。今年は満開の菜の花の中で運動会を開催することができた。
- ・今年から、総合学習に英語が組み込まれ、地域とのかかわりを持つ時間が少なくなることが心配。
- ・現時点では、本対策による様々な活動は子供たちにとって、すばらしい体験をすることができる時間となっている。

婦人会（食育・文化保全部） 大坂委員

- ・食育、文化保全、米づくり、対策を契機にイベントとなった地域交流会の余興のおどりを主に担当している。
- ・田植え、刈り取り後の“こびり”づくりなど人数が多いため大変なこともあるが、地域の世代間交流にかかわることができて良かった。

こびりの会 高橋会員

- ・7～8年前に、昔の農作業を伝えたいということで有志で結成した組織。
- ・保全隊では、田植えの枠ころがしや刈り取り後のハサ掛け等、農作業の影の役者的存在。
- ・“こびり”とは・・・
昔、田植えの時に出したご飯で、米粒を半分つぶしたようなもの。
農作業が機械化されていなかったころ、朝早くから農作業を行い、朝と昼の間に食べたことから“こひる”がなまって“こびり”となった。

検討委員会からの感想、質問等

田仲委員

- ・構成員は地域住民の何%位となっているか。
- 綴子大太鼓の里保全隊
- ・全世帯が構成員であるが、現時点では全世帯が活動に参加は出来ない状況。

田村委員

- ・農道への花の植栽をマリーゴールドに決めた理由は何か。
- 綴子大太鼓の里保全隊
- ・多人数で苦労して植え付けた花のため、長い期間咲いている花として選定した。

田村委員

- ・地域住民の反応は。
- 綴子大太鼓の里保全隊
- ・農道は地域の主要道路となっており、通行する人からも好評を得ている。

田村委員

- ・役員研修の内容は。
- 綴子大太鼓の里保全隊
- ・横手市旧平鹿町の樽見内での研修。
 - ・“一郷如一家族”の言葉を大きな柱に、地域住民が一つの家族のように活動している様子は、参考とすべきものであった。

児玉副委員長

- ・綴子では、H16から3年間、作物の現地試験や山のいもの試験を行ってきた。
- ・マリーゴールドの花の匂いは虫を防除する力を持っているし、根は連作障害の一つのセン虫を殺す力を持っている。
- ・共同活動は非常に良くやっていると思うが、法人等も育ってきている地域であり、営農活動への取り組みを目指して欲しい。さらに環境保全に向けたステップアップが可能となる。
- ・研修に行った樽見内では、営農活動にも取り組んでおり、減農薬栽培等の産地指定を受け、主に名古屋方面へ出荷している。
- ・今後は地域の生産振興を進めていくことも重要となる。残された期間、検討してほしい。

阿部委員

- ・ 農業振興だけでなく、対策の主旨である地域振興のための交付金の使い方に感心。
- ・ 特に世代間交流、農家・非農家の交流活動は素晴らしい。
- ・ 対策は、あと2年で区切りを迎えるが、その後が心配。
- ・ 今後も継続してもらいたい事業と考えている。
- ・ 雑談であるが、道の駅等には直売所があるのが一般的となっている。
- ・ 綴子でも大太鼓に加えて地場産の農作物直売所を設ければ、さらに地域の活性化につながる。

柏田委員

- ・ 子供たちの活動に感動。
- ・ 伝統文化を次世代に伝えようとする意欲が素晴らしい。
- ・ 地域の特産物に付加価値を付けて、綴子を訪れる方々に提供してはどうか。
- ・ 英語の取り組みで、地域とのかかわりを持つ時間が少なくなる点については、現在行っている活動が継続できるよう、みんなで知恵を絞って欲しい。

長濱委員長

- ・ 10集落で組織化した理由は、また、広域で取組むメリット、デメリットは。
綴子大太鼓の里保全隊
- ・ 施設を管理する土地改良区の立場として、国へは維持管理の補助を以前から要望してきたところ。
- ・ 地域住民と農家との連携を行う「21世紀創造運動」に取り組んでいたところ、本対策が創設された。
- ・ 地域住民と農家が連携して維持管理や農村環境保全を行う、本対策は地域で願ってあった事業。
- ・ 改良区全域で行うことで、土地改良区賦課金の平等感が保たれることがメリットと考えている。
- ・ 反対に集落が脱落することが、平等感を保てないことでデメリットとなると考えている。

長濱委員長

- ・ 地域交流会の活動経費は。

綴子大太鼓の里保全隊

- ・ 材料費等の経費は、学校田で収穫した米の販売代金を利用している。

長濱委員長

- ・ 対策が終わって交付金がなくなったとしても、簡単に、金の切れ目が縁の切れ目にならないくらいの、人間関係が本対策で出来上がったという話を県内の組織から聞くことができる。
- ・ 自立した活動の継続のためには、ビジネスに発展させていくことが一つの大きなテーマ。

意見交換を終えて

長濱委員長

本日の委員会の内容は、今年度行われる施策の中間評価に当たり、参考にさせていただきたい。

組織の皆様におかれては、今後も効果の高い共同活動を展開していただくことをお願いし、意見交換会を閉じたい。ありがとうございました。